

[060] 語文研究表紙奥付等

<http://hdl.handle.net/2324/10207>

出版情報：語文研究. 60, 1985-12-15. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

学会彙報

昭和六十年第一学期講義題目 (昭和60年4月～9月)

国語学

特講 国語学要論

奥村 教授

演習 平曲

特講 国語学要論

奥村 教授

“ 国語学の諸問題

“ 国語学の諸問題

特研 倒叙国語史

特研 倒叙国語史

特講 国語史の諸問題

迫野 助教授

演習 虎清狂言本

演習 天正狂言本

“ 国語史資料研究

“ 国語史資料研究

特研 国語表記史の研究

特研 国語表記史の研究

講義 奈良時代の日本語

講義 奈良時代の日本語

“ 近代文章史

“ 近代文章史

“ 国文学

臨講 国語史資料論

特講 板本書誌学

中野 教授

演習 本朝文鑑

特講 板本書誌学

中野 教授

“ 在津紀事

演習 本朝文鑑

特研 近世文人伝

“ 田舎莊子

特講 物語文学史

特研 近世文人伝

演習 伊勢物語

特講 物語文学史

“ 狭衣物語

演習 蜻蛉日記

特研 平安朝文学の諸問題

“ 狭衣物語

特講 日本におけるフランス象徴主義 (教養部) 清水 教授
 演習 芥川作品研究 (教養部) 海老井 助教授
 臨講 近現代の文学 (名古屋大学) 助川 教授

昭和六十年第二学期講義題目 (昭和60年10月～3月)

国語学

特講 国語学要論

奥村 教授

演習 平曲

“ 国語学の諸問題

特研 倒叙国語史

特講 国語史の諸問題

迫野 助教授

演習 天正狂言本

“ 国語史資料研究

特研 国語表記史の研究

講義 奈良時代の日本語

“ 近代文章史

臨講 国語史資料論

“ 国文学

特講 板本書誌学

中野 教授

演習 本朝文鑑

“ 田舎莊子

特研 近世文人伝

特講 物語文学史

演習 蜻蛉日記

“ 狭衣物語

今西 助教授

特研 平安朝文学の諸問題

特講 日本におけるフランス象徴主義

演習 近代文学作品研究

今西 助教

清水 教授

(教養部) 海老井 助教

▼昭和六十年九州大学国語国文学会総会並びに研究発表会

昭和60年6月9日(日)

研究発表題目

中村本『夜の寝覚』の研究

椋梨一雪『古今大著聞集』をめぐって

高野蘭亭放

続日本紀宣命における助詞表記

洞門抄物「報恩録」の国語学的研究

見島のアクセント研究

遠山景晋『未曾有記』について

都の錦の西鶴受容

連歌と俳諧と——能順のおかれた位相——

『伊勢物語』五二段—五七段における言語性を考え

その編成意図に及ぶ

膝栗毛の遠州方言「能か」と九州方言

「兵部の大輔」考——『源氏物語』末摘花の背景

坂本 信道

田中 葉子

高橋 昌彦

山下 和弘

赤峯 裕子

二階堂 整

板坂 耀子

若木 太一

棚町 知彌

吉田 達

秋山 正次

今西 祐一郎

▼第二十五回西日本国語国文学会

於宮崎大学 昭和59年9月21日(土)〜22日(日)

研究発表題目

『おくのほそ道』の構想

大坂本屋仲間雑放

『和独対訳辞林』について

『安々言』をめぐって

琉球方言の韻律論的性格

近世東海道紀行の諸問題

玉里文庫蔵『庄内陣記』の性格覚え書き

白石 梯三

安永 美恵

坂本 浩一

飯倉 洋一

崎村 弘文

板坂 耀子

橋口 晋作

▼卒業論文構想発表会

於法文系二〇四番講義室 昭和60年11月9日(土)

▼国語学国文学公開講演会

於文学部会議室 昭和60年12月12日(木)

平安朝日本漢詩文と和歌

福岡教育大学助教 工藤 直矩氏

国語史研究のための外国関係資料

岡山大学教授 大友 信一氏

▼会員消息

森山 隆氏(昭和29年卒業・教養部教授)は、去る六十年十一月一日逝去されました。衷心より御冥福をお祈り申し上げます。

▼お知らせ

先の学会報告でもお知らせ致しました通り、本誌誌代を今号より一部千円に値上げさせていただきます。諸経費高騰によるやむを得ない措置で御座いますので、宜しく御承認下さい。

昭和六十一年度九州大学国語国文学会

総会並びに研究発表会のお知らせ

日時 昭和六十一年六月八日(日)午前九時三十分より

場所 九州大学文学部

※研究発表御希望の方は、発表題目を明記の上、九州大学国語国文学会宛、昭和六十一年五月十日までにお申込み下さい。

執筆者紹介

今西祐一郎	九州大学文学部助教授
後藤昭雄	大阪大学教養部助教授
板坂耀子	福岡教育大学助教授
高橋昌彦	九州大学大学院(修士課程)
坂本浩一	九州大学大学院(修士課程)
横山正	大阪教育大学名誉教授
吉田達	
金原理	熊本大学文学部教授
園田豊	北九州大学文学部助手

《規定》

- 一、投稿は原則として九州大学国語国文学会会員に限るが、それ以外の方に投稿を依頼することもある。
- 二、投稿原稿は四百字詰原稿用紙三十枚内外を一応の規定とし、その際、二枚程度の要旨を添付されたい。
- 三、原稿の採否等については運営編集委員会に一任されたい。
- 四、刊行は年二回(春・秋)を原則とする。
- 五、刊行会費は現在年額維持会員四千元(各号二部配布)、通常会員二千元(各号一部配布)とする。
- 六、執筆者には別に二部を贈呈し、希望者には抜刷を実費で分ける。
- 七、会員以外の購読者は毎号ごとに誌代を納められたい。